

全体総括

○計画期間：平成19年5月～平成24年3月（4年11月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

人が住まい、集い、にぎわう中心市街地をめざした基本計画に基づき多面的、重層的に事業を展開してきた。

本市の中心市街地活性化の大きな柱の一つである定住促進にあつては、市街地再開発事業や優良建築物等整備事業により、住宅、商業業務施設、シンボルロードなどの整備を推進するとともに、まちなか区域における住宅の建設・購入に対する助成等による定住のための支援を着実に推進したほか、「玉川こども図書館」や「近江町交流プラザ」の開館・運営など誰もが快適、安全、安心して暮らすことのできる住環境の整備、ゆめまちづくり活動支援事業等による地域交流活動の促進、生鮮食料品の出店支援や「金沢ふらっとバス」のルート拡充など生活利便性の向上施策に総合的に取り組んできた。その結果、中心市街地における人口の社会動態は、計画期間中の合計で転入者数が転出者数を上回る数値を得ており、定住促進施策の効果が顕著に表れている。

また、地域住民及び来街者の利便性向上と、事業者等の社会的・経済的活動が活性化するとともに、人・モノ・情報が集まり活発な交流が生まれるまちづくりを目指し、市街地再開発事業等によるにぎわいをもたらす施設の整備をはじめ、中心市街地への出店促進や業務機能の集積を図るための空室・空店舗対策に取り組むとともに、用水沿い通り整備事業や金沢百万石まつり開催事業など金沢固有の伝統的なまちなみや文化を活かしたまちづくり及び発信事業の推進、商店街・民間事業者が中心となり実施するイベントの開催などにぎわいを創出するソフト事業の実施、さらには、おしゃれメッセ、ラ・フォル・ジュルネ金沢の開催など、新たな創造の取組みを進めてきた。これにより、金沢地域への観光入込客数や北陸自動車道の出入台数から推計した入込客数は増加しており、また、中心市街地における観光文化施設の利用者数においても不況による影響を受けず、ほぼ増加傾向で推移しているなど、金沢の魅力向上、誘客促進にその効果が現れている。

まちなかでは、四季を通じて様々な催しが行われ、行き交う人々の足取りも軽やかである。

特に、新たに整備された商業施設や観光施設、人気店舗のオープンにより、新しい人の流れが生じ、立地する商業地への集客だけでなく、隣接する商業地との相互回遊がみられるようになるなど、にぎわい創出に貢献している。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

計画書に記載した168事業のうち、162事業が完了または既に着手、推進中であり、概ね当初の予定どおり進めることができた。

来街者の交通手段の変化により、設定した目標値に達することができなかった指標もあるが、上記「1.」のとおり総じて来街者は増加傾向にあり、また、中心市街地の人口のマイナス傾向が低減しているなど、中心市街地の活性化に不可欠な定住及び交流人口の双方について、増加・改善がみられることから、中心市街地の活性化は概ね図られたと考える。

3. 活性化が図られた（図られなかった）要因（金沢市としての見解）

中心市街地の活性化は、行政のみならず、市民、事業者等の主体的参加、協働での取組が不可欠であるため、中心市街地活性化に関する情報提供、意見交換及び協働の取組を積極的に行ってきた。

住民、学生、地域、事業者、そして市とが相互に交流を重ね、協働して事業に取り組めたことにより、多様な立場の市民から得られた意見や提案等を中心市街地の活性化に反映し、効率的・効果的に事業を推進できたことが要因としてあげられる。

4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて(協議会としての意見)

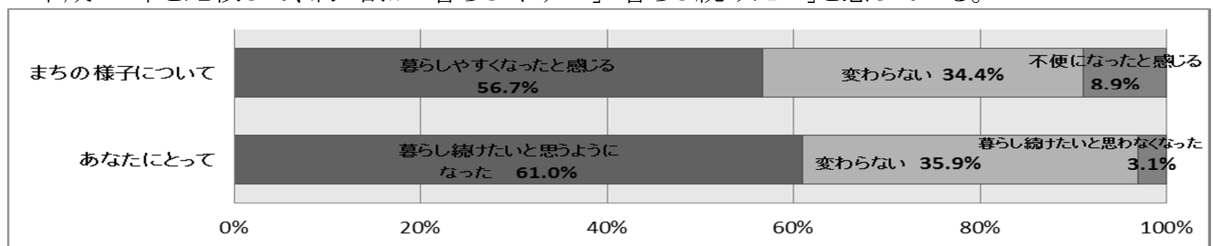
計画認定以前も金沢市はまちづくりに積極的に取り組んでいたが、計画期間中の取組では、様々な意見をもとに策定した計画を協議会に丁寧に説明し、金沢商工会議所や商店街などの組織と一体となって計画を実現させ、中心市街地は活性化したと感じられる。実際、イベントは毎週のように開催され、それを楽しみにまちに出る人も増えているようだ。

金沢市とは、平成 19 年の当協議会設立当初から良好な関係を築けているが、第2期計画の実施にあたり、今後は我々協議会も金沢市と十分な意見交換を増やしなが、まずは北陸新幹線開業に向け、更なる活性化に向けて努力していく所存である。

5. 市民意識の変化

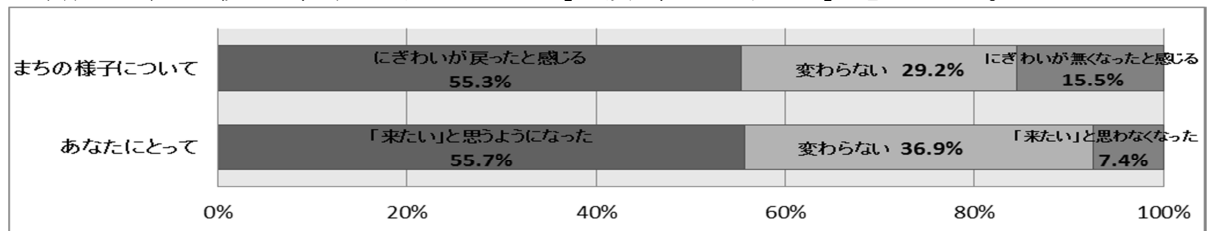
(目標1)誰もが暮らしやすい中心市街地について

平成 17 年と比較して、約6割が「暮らしやすい」「暮らし続けたい」と感じている。



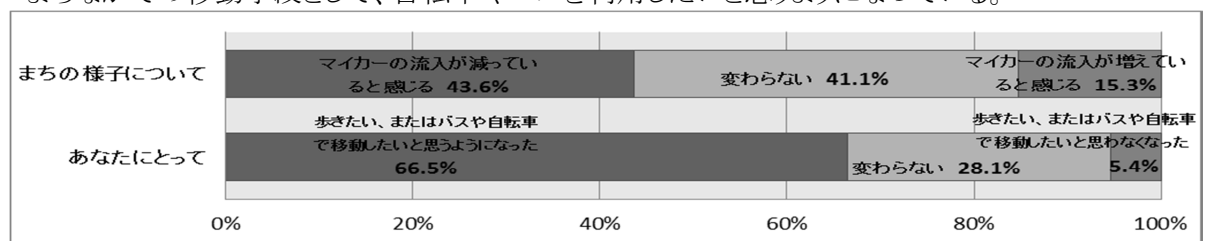
(目標2)にぎわいと交流が生まれる中心市街地について

平成 17 年と比較して、6割近くが「にぎわい」が戻り、また「来たい」と感じている。



(目標3)過度に自動車に依存しない中心市街地

中心市街地へ流入する自動車が減ったと感じているのは、半数に満たなかったが、約 7 割が、まちなかでの移動手段として、自転車やバスを利用したいと思うようになっている。



※調査方法: 市HP上でのアンケート実施及び中心市街地内で行われた公演等での調査表配布・回収 (回答数 507)

6. 今後の取組

本基本計画の実施による成果をさらに伸張し、まちなかに一層の活力をもたらすために、「人が住まい、集い、つながる」中心市街地を目指して、第2期基本計画を策定し、本年3月に認定を受けた。これに基づいて、金沢固有の資産を基本に、各種事業のターゲットの明確化や国内外との連携推進等も考慮しながら、効果的な取組を計画的に進めていく予定。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
誰もが暮らしやすい 中心市街地	中心市街地の人口の年間社会動態	▲462 人/年 (H14～18 年の平均)	プラスに (H19～23 年の合計)	＋38 人 (H19～23 年の合計)	H24.1	A
にぎわいと交流が生まれる 中心市街地	主要商業地の休日の歩行者・自転車通行量 (金沢駅、横安江、武蔵、近江町、香林坊、片町、堅町)	73,292 人 (H17) 金沢駅を除く。	80,000 人 (H23) 金沢駅を除く。	70,600 人 (H23.10) 金沢駅を除く	H23.10	C
		—	金沢駅については、調査初年(H19)をベースにプラス傾向をめざす。	金沢駅 25,036 人 (H23.10) (プラス傾向)	H23.10	A
	J R 金沢駅の年間定期外乗車人員	368 万人 (H17)	400 万人 (H23)	356 万人 (H23)	H24.3	C
過度に自動車に依存しない 中心市街地	金沢ふらっとバスの乗車人員	708,478 人 (H17)	750,000 人 (H23)	776,852 人 (H23)	H24.3	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標
目標「誰もが暮らしやすい中心市街地」

「中心市街地の人口の年間社会動態」※目標設定の考え方基本計画 P. 36～P. 40 参照																																											
1. 調査結果の推移																																											
<div><div><div>(人)</div><div><table><thead><tr><th>年</th><th>人口変動(人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H14</td><td>-425</td></tr><tr><td>H15</td><td>-812</td></tr><tr><td>H16</td><td>-154</td></tr><tr><td>H17</td><td>-594</td></tr><tr><td>H18</td><td>-325</td></tr><tr><td>H19</td><td>31</td></tr><tr><td>H20</td><td>-106</td></tr><tr><td>H21</td><td>88</td></tr><tr><td>H22</td><td>153</td></tr><tr><td>H23</td><td>-66</td></tr></tbody></table></div><div><div>H19~23の合計: 38(実績数値)</div><div>H19~23の合計をプラスに</div></div></div></div> <div><table><tr><th>年</th><th>(単位: 人)</th></tr><tr><td>H14~18の平均</td><td>▲462 (基準値)</td></tr><tr><td>H18</td><td>▲325</td></tr><tr><td>H19</td><td>▲31</td></tr><tr><td>H20</td><td>▲106</td></tr><tr><td>H21</td><td>88</td></tr><tr><td>H22</td><td>153</td></tr><tr><td>H23</td><td>▲66</td></tr><tr><td>H19~23の合計</td><td>38 (実績値)</td></tr><tr><td>H19~23の合計</td><td>プラスに (目標値)</td></tr></table></div>	年	人口変動(人)	H14	-425	H15	-812	H16	-154	H17	-594	H18	-325	H19	31	H20	-106	H21	88	H22	153	H23	-66	年	(単位: 人)	H14~18の平均	▲462 (基準値)	H18	▲325	H19	▲31	H20	▲106	H21	88	H22	153	H23	▲66	H19~23の合計	38 (実績値)	H19~23の合計	プラスに (目標値)	
年	人口変動(人)																																										
H14	-425																																										
H15	-812																																										
H16	-154																																										
H17	-594																																										
H18	-325																																										
H19	31																																										
H20	-106																																										
H21	88																																										
H22	153																																										
H23	-66																																										
年	(単位: 人)																																										
H14~18の平均	▲462 (基準値)																																										
H18	▲325																																										
H19	▲31																																										
H20	▲106																																										
H21	88																																										
H22	153																																										
H23	▲66																																										
H19~23の合計	38 (実績値)																																										
H19~23の合計	プラスに (目標値)																																										
※調査月;平成24年1月 ※調査主体;金沢市 ※調査方法;住民基本台帳 ※調査対象;中心市街地活性化基本計画区域内																																											
【総括】																																											
平成21年に中心市街地の人口の年間社会動態はプラスに転じ、平成19年～23年の合計は+38人となり目標を達成した。																																											
2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)																																											
・まちなか定住促進事業(事業主体名:金沢市)																																											
支援措置名及び支援期間																																											
事業開始・完了時期	平成10年度～平成26年度																																										
事業概要	まちなか区域において、定住人口の増加を図るため、戸建て住宅の建設又は購入、共同住宅の購入または改修に助成するもの																																										
目標値・最新値	<p>【見込値】なし</p> <p>【最新値】計画期間中の本事業の活用数は以下に示したとおりである。</p> <p>戸建住宅においては、計画期間中における年間新規着工数が、H16年度のピーク時(254戸)からほぼ半減(H23年度:128戸)した中で、本事業の認定戸数にはそれほどの減少がない(96戸→67戸)ことから、本事業の推進により定住の促進が図られていると考えられる。</p> <p>・まちなか住宅建築奨励金 (H19～H23実績) 286戸認定</p> <p>・まちなか共同住宅建築費補助(H22年度終了)</p> <p>(H19～H22実績) 35戸認定</p> <p>・まちなかマンション購入奨励金 (H19～H23実績) 45戸認定</p> <p>・まちなか中古分譲マンション補助(H23年度新設) (H23実績) 11件認定</p> <p>本事業による居住人口増加分は363人^(※)と想定。</p> <p>(※) 363人 = 認定戸数計 377戸</p> <p>×まちなか区域外からの転入居率(認定者の居住動向) 45%</p> <p>×H22中心市街地の平均世帯人数 2.14人</p>																																										
達成状況	目標達成																																										
達成した理由	新規着工数の推移等に応じて助成制度の新設や改廃を行ってきたため。																																										

計画終了後の状況（事業効果）	制度の周知が図られ、まちなかでの住宅建築・購入の誘因として働いている。
まちなか定住促進事業の今後について	今後も、戸建住宅への支援だけでなく、空地・空家や共同住宅の空住戸など、既存ストックを活用した支援を継続するほか、昭和 25 年以前の家屋の改修を支援することでまちなかからの転出を抑制し、転入を促進していく。

3. 今後について

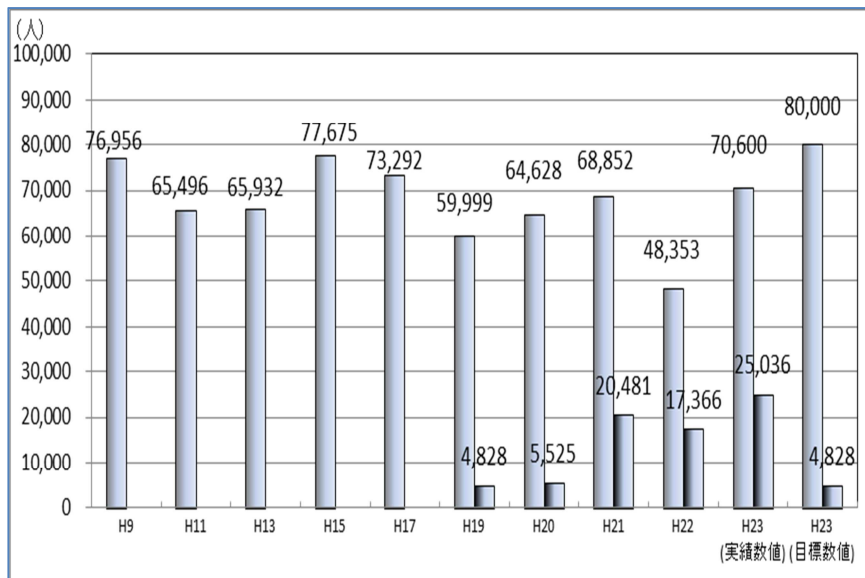
本年 3 月、第 2 期計画の認定を受け、引き続き「中心市街地の人口の年間社会動態」を指標に定めた。これに基づき、金沢固有の美しい自然、歴史、伝統、文化、社会資本ストック等を有効活用し、開発と保全の調和を図りながら、多様な都市機能を集積させ、また、旧町名の復活や広見の再整備等による地域コミュニティ醸成の取組を通じ、地域への愛着が感じられる潤い豊かな住環境づくりを進め、誰もが暮らしやすい中心市街地づくりを推進していく。

個別目標

目標「にぎわいと交流が生まれる中心市街地」

「主要商業地の休日の歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P. 41～P. 45 参照

1. 調査結果の推移



(H19 以降：左/金沢駅除く 右/金沢駅)

年	(単位：人)	
H17	73,292 (基準年値)	
H18	-(計測なし)	
H19	59,999	4,828 (※)
H20	64,628	5,525
H21	68,852	20,481
H22	48,353	17,365
H23	70,600	25,036
H23	80,000 (目標値)	4,828 (※目標値：H19をベースにプラス傾向) * 金沢駅

※調査手法;調査地点を通過する歩行者を調査員が進行方向別、男女別にカウント

※調査月;平成23年10月 ※調査主体;金沢市 ※調査対象;中学生以上の歩行者(自転車は歩行者に含む)

【総括】

金沢駅を除く6地点については、計画期間中に減少傾向から転じて、緩やかな増加傾向となったものの、目標値に約9千人及ばなかった。一方、金沢駅では、2万人を越えた増加となり、測定地点全ての総計では、目標値を上回った。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況(事業効果)

①武蔵ヶ辻第四地区第一種市街地再開発事業(事業主体名:武蔵ヶ辻第四地区市街地再開発組合)

支援措置名及び支援期間	市街地再開発事業 平成14年度～平成20年度
事業開始・完了時期	昭和61年度～平成20年度
事業概要	市街地再開発事業により、武蔵ヶ辻の一角に位置する近江町市場の再整備を行うとともに、併せて、道路等公共施設を整備する。
目標値・最新値	近江町、武蔵の休日の歩行者・自転車通行量 【見込値】約5,000人増加 【最新値】4,806人増加(H23.10調査) 本事業で整備した施設のオープンから1年以上が経過し、通行量は落ち着いたものの、ほぼ見込値どおりの数値を得ていることから当初想定した程度のにぎわいは創出されたと考える。
達成状況	目標ほぼ達成
達成した理由	新たな交流施設をオープンするとともに、周辺道路の整備やふらっとバスのルート開設を実施したため。
計画終了後の状況(事業効果)	通行量が増加し、にぎわいが創出されている。
武蔵ヶ辻第四地区第一種市街地再開発事業の今後について	実施済み

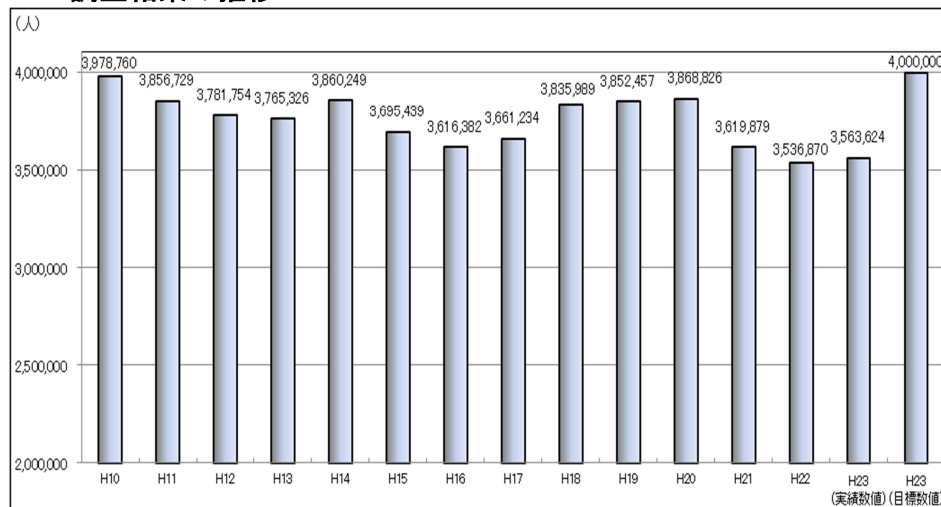
3. 今後について

本年3月、第2期計画の認定を受け、中心市街地の『にぎわい』を示す目標指標として引き続き「主要商業地の休日の歩行者・自転車通行量」を定めた。これに基づき、魅力ある商業集積の展開と活気あるオフィス街の形成を通じ、地域住民及び来街者の利便性の向上、事業者等の社会的、経済的活動が活性化したにぎわいのある中心市街地づくりを推進していく。

目標「にぎわいと交流が生まれる中心市街地」

「JR 金沢駅の年間定期外利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P. 46～P. 47 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H17	3,661,234 (基準年値)
H18	3,835,989
H19	3,852,457
H20	3,868,826
H21	3,619,879
H22	3,536,870
H23	3,563,624
H23	4,000,000 (目標値)

※調査月；平成24年3月

※調査主体；西日本旅客鉄道株式会社

※調査方法；利用実績調査

※調査対象；JR 金沢駅の年間定期外利用者

【総括】

平成17年以降、緩やかに増加していたが、平成21年度に減少に転じた。平成23年度は前年に対して僅かに増加したものの、356万人に止まり、基準値366万人及び目標値400万人いずれにも及ばなかった。

しかし、金沢地域への観光入込み客数が継続して増加（H17:647万人→H22:815万人）し、北陸自動車道出入台数が平成21年度より大きく増加（H20→H22: +105万台）していることからみて、平成20年10月から実施された高速自動車道路の料金割引制度が大きく影響したとみられ、観光客など来街者の交通手段が、鉄道から自動車にシフトしたものと考える。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①文化的景観保存事業（事業主体名：金沢市）

支援措置名及び支援機関	文化的景観保護推進事業
事業開始・完了時期	平成19年度～
事業概要	近世城下町が基盤となって形成される文化的景観の保存計画を策定し、国の重要文化的景観の選定を目指す。また、歴史的まちなみである「長町武家屋敷群跡」や「西茶屋街」等の調査、整備を行うもの。
目標値・最新値	【見込値】なし 【最新値】本事業で目指した、国の重要文化的景観の選定を受けた。 （「金沢の文化的景観 城下町の伝統と文化」(H22.2)） 中心市街地における観光文化施設の利用者数が不況による影響を受けず、ほぼ増加傾向で推移していることから、まちなかのにぎわい創出が図られたと考えられる。
達成状況	目標達成
達成した理由	歴史的・文化的資源、景観資源を活かしたまちづくり及び発信事業の実施による。
計画終了後の状況（事業効果）	歴史的文化的価値の向上により、交流人口の増加に結びついている。
文化的景観保存事業の今後について	国の重要文化的景観の選定を受けており、整備計画に基づき文化的景観の保全整備を図っていく。

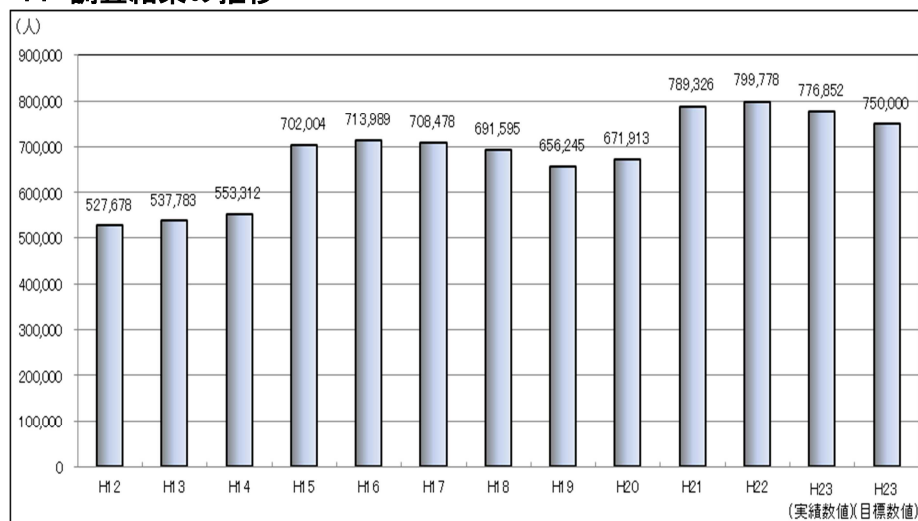
3. 今後について

本年３月、第２期計画の認定を受け、中心市街地の『交流』を示す目標指標として、金沢までの移動手段の多様化に対応するため「中心市街地の観光施設の利用者数」と定めた。これに基づき、国の内外から金沢に人を迎え入れるため、まちの持つ魅力に磨きをかけ、金沢ブランドの向上、新産業の創出を推進することで、人・モノ・情報が集まり、活発な交流が生まれる中心市街地づくりを進めていく。

目標「過度に自動車に依存しない中心市街地」

「金沢ふらっとバスの乗車人員」※目標設定の考え方基本計画 P. 48～P. 50 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H17	708,478 (基準年値)
H18	691,595
H19	656,245
H20	671,913
H21	789,326
H22	799,778
H23	776,852
H23	750,000 (目標値)

※調査月；平成24年3月

※調査主体；金沢市

※調査方法；乗車人員実績調査

※調査対象；全ルートの乗車人員

【総括】

乗車人員は、平成19年度に一時落ち込んだが、新ルートの開設（H20）や、子ども料金（大人・子ども一律100円から子ども半額を導入）及び全ルート共通回数券の新設（H22）などの利用促進策を展開することで増加し、目標を達成した。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

- 金沢ふらっとバス運行事業（事業主体名：金沢市）

支援措置名及び支援機関	
事業開始・完了時期	平成10年度～
事業概要	循環型コミュニティバス「金沢ふらっとバス」を運行し、公共交通優先のまちづくりを推進するもの。
目標値・最新値	ふらっとバス乗車人数 【見込値】750,000人 【最新値】776,852人（H23.4～H24.3実績）
達成状況	目標達成
達成した理由	新規施設整備に伴う新ルートを開設及び利用促進事業を実施したため。
計画終了後の状況（事業効果）	まちなかに住まう市民の足として定着し、利用されている。
金沢ふらっとバス運行事業の今後について	今後も引き続き運行し、公共交通の一層の利便性向上のため、民間路線バスの主要交通結節点との間で、それぞれの路線を補完しながら中心市街地全体の公共バス交通を活性化させていく。

3. 今後について

本年3月、第2期計画の認定を受け、まちなかに住まう市民だけでなく、来街者も含めた、自動車に過度に依存しない中心市街地を目指すため、その目標指標として、「公共レンタサイクル「まちなり」の利用回数」を定めた。これに基づき、より一層の歩行者、公共交通を優先したまちづくりを推進し、市民のモビリティ（移動利便性）の向上を図ることで、都市の魅力を高め、過度に自動車に依存しない中心市街地づくりを推進していく。